

新版「良き生と良き死」

著者：柏木哲夫

- ・対象：すべての人
- ・方法：グループでの読書会にて分かち合い
- ・回数：Ⅰ～Ⅳで4回

1. この本を読むにあたって

著者：柏木哲夫（かしわぎ・てつお）

1939年5月29日 生まれ。兵庫県出身。1965年大阪大学医学部卒業。大阪大学精神神経科に3年勤務。1969年ワシントン大学に留学。1972年帰国、淀川キリスト教病院に精神神経科を開設、ターミナルケア実践のためチームを結成。その後、同病院にて内科医としての研修を受け、1984年にホスピスを開設し、その後副院長、ホスピス長を経て、1993年大阪大学人間学部教授。2004年定年退官、金城学院大学元学長。厚生労働省医政局所管特例民法法人である日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の理事長も務める。医学者、内科医、精神科医。博士（医学）、博士（人間科学）。専門はターミナルケア。日本メノナイト・ブレザレン教団石橋キリスト教会会員。淀川キリスト教病院名誉ホスピス長、大阪大学名誉教授。

出版社：いのちのことば社

出版年：2008年9月

本の要点：

本書は、ホスピス医としての看取りという仕事を通して著者が、患者さんやご家族から学んだ多くのことを講演という形で行ったものに修正加筆して出版された。「良き生と良き死」のキーワードは「感謝」であり、人は生きてきたように死んでいくことを多くの事例をあげながら読者に自分の生き方や必ず訪れる死について思いを深められるようにとの意図で書かれている。

本の内容：

この本は、4章からなっています。

- Ⅰ 心を見つめて
- Ⅱ 現代人の生と死
- Ⅲ 私たちの生と死をめぐって
- Ⅳ 死にゆく患者と家族への援助

《いかに生きるかを見つめる書》

2. 確認コーナー

- I この複雑な現代社会の中で、心安らかに生きて行くために必要なことを分かち合いましょう。
- II あなたの周りにある「老い」と「死」をタブー視する風潮を確認しつつ、「良き死」につながる第一条件を話し合いましょう。
- III あなたの周りの死から教えられた「良き死を死すためには良き生を生きなければならぬ。良き生を生きることが良き死につながる。」という事例をあげて分かち合いましょう。
- IV 「死にゆく患者と家族への援助」を読んであなたはクリスチャンとして、どのような人間の最後の成長である「死」を支えることができ、またそのご家族へどんな接し方、援助ができるかを考え、分かち合いましょう。